■大内盛見　　武将。守護大名。第11代大内氏当主。幕府による弱体化策に抵抗し，九州支配権を確保した。
おおうちもりみ
高麗倭寇ﾋﾟｰｸ1377＝　　周防国山口で，大内弘世の六男に生まれる。幼名六郎。

義満親政始・1379＝ 2歳：

南禅寺ﾄｯﾌﾟ・1386＝ **9歳：**

南北朝合一・1392＝15歳：

足利義満出家1395**＝18歳：**
・・・・・・1396＝19歳：九州探題渋川満頼に対して少弐貞頼・菊池武朝が反乱を起こすと次兄の満弘と共に九州に出陣。

応永の乱・・1399＝22歳：兄義弘が応永の乱で敗死し，すぐ下の弟弘茂が幕府に降って，周防・長門を安堵されたとき，兄の遺志を継ぐべく3代将軍足利義満への抵抗と大内氏の家督相続を画策する。弘茂と絶縁し，弘茂が幕府の支援を得て周防・長門に下向すると敗退し一旦豊後に引き下がるが，
遣明船始・・1401＝24歳：弘茂の留守を突いて反撃に出，長門府中に上陸して弘茂を滅ぼし，山口に帰る。
花伝書・・・1402＝25歳：その後，弘茂の跡を継いだもう1人の弟，道通をも滅ぼし，安芸・石見に進撃して道通を支援した国人衆も降伏させて，対抗できる人物がいなくなり，**＊将軍義満も家督を認めざるをえず，防長の守護職を安堵，**
・・・・・・1403＝26歳：**_"周防・長門凶徒"の御判御教書を発してまでされた討伐を失敗させ，義満に屈辱を与えるも，**
勘合貿易成立1404**＝27歳：_少弐氏・菊池氏に攻められている九州探題渋川満頼の支援の必要性から，筑前守護職を与えられ九州経営の重責を担うことになるが，義満の在世中には決して上洛せず，**
・・・・・・1406＝29歳：この頃，出家して徳雄と号する。この年，法泉寺という僧になっていた崇光宮が，出世の協力を得るべく下向してくるが，その後，うまく行かず，長期にわたって滞在。
足利義満没・1408＝31歳：**＊義満が死去，豊後守護職にも任命された後，上洛，以後，主に在洛して，相伴衆として幕政に参加するなど幕府に重用される。文人としても優れ，京都五山の僧達と交わって禅を修め，興隆寺に供養会を開き，**
・・・・・・1410＝33歳：**_伝統文化受容も地に着いたもので，僧霊通に施財して「蔵乗法数」を開板，現存最古のものとなり，以後，施財しての仏典刊行が盛んになる。**
・・・・・・1413**＝36歳：**
南朝旧臣ながら将軍足利義持に厚遇された歌僧耕雲明魏(花山院長親)を庇護しながら，歌学を学ぶ。

応永の乱で失墜した権威を回復すべく，朝廷に働きかけ，将軍足利義持の後ろ盾を得て，
・・・・・・1418＝41歳：**_宇佐神宮の造営に着手するなど，文化的業績を挙げ，**

_李氏朝鮮と通交して大蔵経を印行させ，大きな利益も得ている。

・・・・・・1422**＝45歳：**

将軍不在化・1425＝48歳：**＊九州探題渋川義俊が少弐満貞・菊池兼朝らに敗れると，急ぎ下向してこれを反乱を平定し，**
_以後，義俊の従弟で新たな九州探題渋川満直を援助して，九州の勢力拡大に取り組み，

義教籤引将軍1428＝51歳：
琉球全島統一1429＝52歳：**_新将軍義教に召され，幕府の御料所となると筑前の代官に任命されるが，少弐満貞や大友持直と筑前の領有をめぐって敵対関係となり，九州に遠征して両氏と戦ううち，**

・・・・・・1431**＝54歳：**宇佐神宮造営がなお続くなか**_筑前深江で敗死した。**

松岡久人「大内氏の研究」，インターネットWikipedia，伊藤幸司編「大内氏の世界をさぐる」，平凡社百科事典，